# 令和５年度第６回清瀬市社会教育委員の会議　議事録

令和５年度第６回清瀬市社会教育委員の会議が令和５年２月１９日に開催された。
出席委員、議事の大要は次のとおり。

日　　時　　令和５年２月１９日（月）午前１０時から午前１１時３０分まで

開催場所　　清瀬市役所本庁舎　２階　会議室２－４（対面開催、オンライン出席者有）

出席委員　（対面参加）
　　倉持委員、齊藤委員、西田委員、玉置委員、相蘇委員
　　（オンライン参加）
　　松山委員

欠席委員　　永嶋委員

事 務 局　　生涯学習スポーツ課　上竹係長、成田

次第１　開会

事務局より
・開催方法の確認（対面開催、松山委員はオンラインで参加、永嶋委員は欠席）
・資料の確認

２　議題
（１）懇談会における意見交換を踏まえた今後の取組について

（倉持議長）
令和５年度第６回清瀬市社会教育委員の会議を始める。
議題のひとつ目、懇談会における意見交換を踏まえた今後の取り組みについてということで進めたい。前回の会議で、社会教育委員と教育委員による懇談会として意見交換をした。
清瀬市における不登校の現状と地域と協働した解決の取り組みについて、不登校支援には様々な支援団体がある。ＮＰＯ法人や子供食堂など、人が集まりネットワークを作ってみるという動きができないか。社会教育委員の会議の中で、実現に向けて何ができるのか議論してほしいということで、教育長から問題提起や情報提供などもいただいた。
本日は、不登校支援に関するネットワーク、社会教育側からのアプローチということで、少し自由に意見交換できたらと思う。

その意見交換の素材として、清瀬市内での不登校の支援施設、団体や場所について資料を事務局で用意してもらったので、資料の説明を事務局からお願いしたい。

（事務局）
不登校支援の施設ということで資料をお配りした。学校や市が運営するものや委託など資料としてまとめた。話し合いの参考材料にできればと思う。

（倉持議長）
資料以外でも、規模を問わず、情報を出してもらえればと思う。
個々で登校支援の活動を頑張っている方同士が、情報交換する場、サポートし合うような集う場があればと思う。実際に活動している方や状況を知っている方もいるかと思うので、少し良いアイディアをいただけたらと思うがいかがか。

（西田委員）
ネットワーク部分に関して、ウイズアイの活動の中では、この支援者連絡会の立ち上げというのが最も近いと思う。
これまでも不登校関係機関を集めて会議を定期的に行っていたが、今年度から助成を受けて行っている事業で、規模が少しずつ大きくなっている。スクールソーシャルワーカー、子ども家庭支援センターなどが入り、支援者連絡会を行っている。
資料に書かれていないものでは、子育て支援ＮＰＯのピッコロ、児童養護施設子供の家の「そだちのシェアステーションつぼみ」が立ち上げられている。そこが学童に居られないお子さんの受け入れを行っている。
実際に私もそこで地域の子供たちと関わっている。支援者連絡会の中では、障害者施設「ひだまり」の相談員、資料にある施設の方も関わっている。同じ子供を複数の団体で見ているときに、情報共有できるかと思う。

（倉持議長）
この支援者連絡会は、ウイズアイが主催なのか。

（西田委員）
ウイズアイが主催である。
子供食堂連絡会を掲げている社会福祉士の方、放課後児童デイサービスの方も関わっている。小規模で行っていたときは、ウイズアイの「ゆいゆいの家」でやれていたが、人数が多くなったため、子供の家の「つぼみ」や「ひだまり」の地域交流スペースを借りながら活動している。
今は大体２ヶ月に１回の頻度で１５人ぐらい。次回は４月１７日に「ひだまり」にて開催予定。

（倉持議長）
西田委員から見て、支援者連絡会の一定程度、不登校支援の支援者の情報交換などはやっているか。

（西田委員）
　不登校だけではなく、結局、家族丸ごとの家族支援みたいなものに繋がっていくところが多い。例えば週１回アウトリーチを兼ねて「お弁当を持って行こうか」と、実際に繋がったケースもある。そのため、活動場所をピッコロ、つぼみ、ウイズアイと連携しながら曜日で割っている。きめ細かくなったという印象がある。

（倉持議長）
　わりと個別ケースというか、踏み込んだ支援という印象を受けた。

（西田委員）
　各所で抱える事例等も共有することで、地域で見守っていく機会が、一人の子どもに対して増えていると感じている。

（倉持議長）
　かなりきめ細やかな体制が、団体の協働、支援者の協働によって作られているという印象を受けた。
　一方で、前回の教育委員との懇談会の中で、もっと裾野を広げられないかという話もあった。学校によって差がある。それぞれ活発なところと、そうではないところとがあるという話。ケースとして、かなり把握されているところや支援が手厚いところはいいのだが、という話もあった。
　玉置委員の話で、学校には行っていないが、スポーツには来る子もいるという話があった。不登校支援を掲げていないが、不登校支援に関わっている人たちがいる。そういう人たちの繋がりもあると思う。
　その辺りも含めて、玉置委員いかがか。

（玉置委員）
　不登校の場合は、対象が小学校低学年か、中学年かで対応や家庭環境も違うと思う。それをカテゴリー別に分類すると問題がある。
　低学年の場合は、いじめなどで学校に行きたくないなど、分類がされやすいと思う。学年や年齢に合う連絡会議。色々な年代の意見も聞けるので、状況に分けて行うのも良いと思う。

（倉持議長）
　確かに、小学校中学年、高学年や中学生とでは状況が違う。支援の仕方も違うのかと思う。共通で行うパターンと、もう少しターゲットをはっきりさせながら行うパターンというような観点も必要かと思う。
　学校に長く関わっているという観点から、相蘇委員いかがか。

（相蘇委員）
　この前話があったように、不登校の原因は本当に千差万別。もちろん、いじめみたいなはっきりとしたものがある場合もあるが、多くはほとんどがそういうことがわからない状態。何となく学校に行きたくなくない、担任の先生との折り合いが悪い。そういう時もあ

れば、勉強が分からなくなってきたからということもある。家から出たくない、お母さんと離れたくないということもある。本当に原因が色々で、どちらかというと、現状とその先の目指すところによって、分類が必要なのかと考えている。
　元気にみんなが学校に通ってきて、楽しく勉強してくれれば良いが、その現状と最終的な落ち着き先、方向に繋げるということではなく、子どもによりいろいろな課題や特性があるため、オンラインでも勉強ができればいいのか。勉強はしなくてもいいから、どこかでやりがいを見つければいいのか。もちろん小学生、中学生によっても違う。
　そのあたり、高校受験のことを考えて、中三ぐらいになると、フレンドルームに来る人が増えるという話も聞く。
　例えば小学校の低学年であれば、「ゆいゆい」など学校にも家にも楽しく過ごしながらコミュニケーションを取り、居場所があれば、もう少し元気になったら学校にも行ってみようと思うお子さんがいると思うので、そのあたりで手立てがあるのはすごく助かる。
　けれども、そこにどういう子が通えて、どういう子が適切なところだというような、細かいデータ情報をいただけると、保護者に勧めるにしても助かる気がする。
　ケースバイケースなので、色々な情報がより細かくあると、学校としてはかなり助かる。

（倉持議長）
　生活、家庭環境、子供たちとの交流も、その後の選択肢が多様にあるのを尊重しながら、どのように支援の裾野を広げていけばよいか。その実態を知るためにも、情報の共有はやはり必要かと思う。どういう選択肢があるかによって、アプローチの仕方が変わってくる。

（相蘇委員）
　今はどこの施設に行くとしても、出席にカウントすることもあり、「ゆいゆい」から学校に情報をいただいているケースもある。
　ただし、「ゆいゆい」でやってることはある程度の報告がないと、出席にはカウントできない。そうとはいえ、何も確認なく、「ゆいゆい」に行けば出席にするというのは学校として今は言えない。
　細かい情報共有や、調べたら分かるというような情報は欲しい。学校が色々なところに全部電話かけて情報を集めなくても済めばよいのだが。
　あくまで不登校という現状を、学校としてどのように扱っていいのか。法的なことも全然変わってきている。気持ちとしてはもちろんみんなが元気に通って、学校生活をしてくれるなら一番良い。不登校の原因も多様化してきている。保護者の要望も、子供に対する願いも同様。
　家からから外に出てくれれば良いという段階の方と、勉強して何とか高校へ、という段階の方では求める施設が違うと思う。

（倉持議長）
　齋藤副議長、いかがか。

（齋藤副議長）
　「ひまわりルーム」について、清瀬第二中学校の中に、今年度から不登校支援ということで、家庭と子供の支援員とボランティアの二人体制で、毎週水曜日の午前中に開放し、

居場所を作っている。
　今年度４月から始めて１年ぐらい経つが、「ひまわりルーム」を見学しに、その生徒と保護者が一緒に訪ねていただいている。
　見学はしていただくが、毎週水曜日の午前中というところで、なかなか支援に繋がらないことが少し課題である。見学された方も、清瀬市内に様々な施設があるので、果たして自分はどこが一番合うのかというのがやはり分かりづらい。それも一つの原因かと思う。
　来年度からの体制は分からないが、もう少し先生方とも情報共有しながら、支援に繋げていきたいと考えている。
　中学校では今、清中、二中、三中、四中の市内４校で、このような居場所づくりということで、それぞれの部屋を設けているが、その４校の間でも、なかなか情報共有がされていないのも現状。

（相蘇委員）
　五中も何かスタートするとは思う。不登校対策をするためのお金をいただかないとできないところもある。
　三中は、今年度は加配が付いていていたかと思う。不登校生徒を受け入れる学級を運営する人ということで、東京都の教員が１人追加になり、東京都の政策で行っていたかと思う。そのための部屋があった。ただし、それは１年限りとかで、人が付けられなくなったら、できなくなるという状況であったと記憶している。
　五中は、このように毎週何曜日とか、場所が決まっている形ではなく、通常の不登校対応として行っていると思う。

（倉持議長）
　今の「ひまわりルーム」のボランティアはどうしているのか。コーディネーターなのか。

（齋藤副議長）
　学校支援本部のコーディネーターで声がけをして、日時を伝えている。

（倉持議長）
　学校支援本部が主導しているのか。

（齋藤副議長）
　ひまわりルームを作ろうという申し入れは学校支援本部を介したが、学校が主導。

（倉持議長）
　いきなり全部はできないので、まずは社会教育委員の会議として、どこから手を付けると良いのか。

（相蘇委員）
　学区域が関係あるのかないのか、自分の子供たちを保護者が連れて行かなければいけないのか、自分一人でいいのかというような情報が小学校としては結構大きい。
　フレンドルームが各小学校に月に何回か出張で来てくれる。この日に〇〇先生が来る日

になっているよと言うと、学校に来るという形で解消に向かっている子もいる。
　その子も、学校のその部屋には来られるけど、フレンドルームに行ってみないかと言うと、またもう１個ハードルがあるようだ。そのため、なるべく細かく情報として学校にいただけると、保護者に相談しやすい。保護者も、学校の担任の先生より、「ゆいゆい」や教育相談に行ってみようというようなこともある。

（倉持議長）
　まず情報収集をして、関係各所の人にも共有してもらえるような形のものを作ってみるというのも一つの案。

（齋藤副議長）
「ひまわりルーム」で不登校の生徒の担任の先生と話をするが、先生も市内にこういう施設があり、こういう子供たちが行っているということをご存知ない。ご存知であれば、色々な選択肢を生徒が保護者に伝えて、うまく繋げられるようになっていくのかとは思う。

（倉持議長）
　学校と情報共有をしていくことが大事。
　結局、学校と先生と保護者と、そういう支援を担っている人たちに、こういう場や選択肢が清瀬市内にもあるいうことを、まずは知ってもらう。やっていないわけではなく、やっているのに知らないというのは、それは繋がらないということだと思う。

（西田委員）
　不登校に特化した食堂がある。そこで小学校時代に出会った男の子がいる。今年度、私はフレンドルームで調理実習を担当しているが、今彼が中三になっていて、とても料理が上手。フレンドルームの調理の日は必ず来る。その方面に進みたいという話を聞くと、繋がっているなと感じる。長期的な見守りが大事だと思う。

（倉持議長）
　出かけたいと思う場所や、地域の中で繋がれる場所があったら、長い目で見ると、そこから出て、学びを続けて社会に出て行くきっかけになるかも知れない。

（西田委員）
　迎えに行かなければ出てきてくれない日、迎えに行っても出てきてくれない日もあったが、諦めないことが大事。
　学校への情報提供に関して言えば、例えば「ゆいゆい」については、お母さんへ学校に情報をお伝えしてもいいですかと同意書をいただいている。同意書をいただかないと安心できない。学校との関係性が良い親御さんはどうぞと言ってくれるが、中には不信感を持っている親御さんは、行かせたくないことも含め、伝えたくない。何で学校が知ってるのかと心配があるので、その辺の難しさも常にある。

（倉持議長）
　親への支援も必要。松山委員いかがか。

（松山委員）
　清瀬市も含めて全国的に増え続けている不登校児童生徒数に対して、代替的な学習生活支援の場は量的質的に共に不足している。専門的な支援を行える人材が不足しているなど、不登校を巡る問題は市を越えて共通のものがあると感じている。
　議論の中でも話があったが、まずは情報収集とその共有、さらにそこから全体として何ができるのかを議論する場を設けるなど、関係者間のネットワークをいかに構築していくかということは、何をするにも必要ではないかと思う。どんな背景があるにせよ、その子供の自立に向けた支援を、いろいろな可能性を試しながら、一歩一歩進めていく必要があると受けとめている。

（倉持議長）
　清瀬でこれだけ行われているということの価値と、それらが知られていないということの課題はあると思う。今やっている活動や取り組みを聞く場があってもいいのかと思う。
　私たちが勉強する場に、公開学習会なり公開イベントという形にして、保護者、先生、支援の方が来られるような場があってもいいと思う。
　そこから始めて、活動してる人たちの話を聞いて、その方たちの実情をみんなに知ってもらいたいという方がいれば、話してもらうというような。
　斎藤委員がおっしゃるように、各中学校で活動を始めているということであれば、逆にその各中学校それぞれから話を聞くという意味で来てもらい、そこでお互い話してもらう。これからどうしていくか、どこが課題なのか、加配がないと難しいとか、そういう条件的な面や、もっと人に手伝って欲しい、学校によってこういう運営の違いがある、こちらはうまくいったが、うちの中学校ではそうはいかないというようなことも含め、色々な学校に来てもらい話してもらう形で設定してもいいだろう。これだけあるので、色々なやり方はあると思う。何かそういう場があると、まずは取っ掛かりとして良さそう。
　来年度の事業として、それがどのように実現可能かは事務局に考えてもらう必要もある。場所や、どういう形態ならうまく位置付くかということも含めて、資源があることは分かったので、公開の場でそれをやりとりする機会があると良いと思う。
　継続協議ということで、次回５月の会議の時の宿題とする。
　まず可能であれば、令和６年度の中で、教育委員会主催でも、社会教育委員の会議主催でも、どこかと共催でもいいが、何かそういう不登校支援について実践している活動、話を聞いてそれを公開で参加できるような機会が実現可能か。予算の関係もあると思うので、それを模索していただく。それを事務局にお願いしたい。
　そして委員の皆様には、そういう場を持つとしたら、実績活動している支援者連絡会のような活動している方に来ていただいて、それぞれ報告する。必要性のようなことを話してもらうパネルディスカッションや、先ほど出ていた中学校での取り組みなどをオープンディスカッションするのが良いか、たくさんの人に来てもらうやり方が良いのか、関係者だけに絞ってやる方が良いのか。これからの支援者、不登校支援の担い手に、場づくりに繋がりそうなことを、それぞれの立場からご意見を寄せてもらえればと思う。皆さんの実情から出していただき、考えをいただきたい。
　次回の議題に継続して、それを話したいと思う。もし何か資料があった方が話しやすいということがあれば、会議の２週間前ぐらいまでに事務局に送っていただけると、私たち委員の皆さんに送られるということなので、よろしくお願いしたい。

では、次のテーマに入りたい。議題の二つ目は４ブロック研修会。
他市の方も来ていただくもので、幹事市になっている。こちらの検討をしたい。
前回皆さんに、ブロック研修会のテーマや方法を伺った。議長、副議長、事務局とで相談しながら、叩き台を作ったのが今日の最後の資料となる。
４ブロック研修会テーマ方法案というのを作ったが、私の観点で作っているところがあるかも知れないので、不足等あればご意見をいただきたい。
前回の会議でいただいた意見をもとに、７つテーマを挙げた。７番目は教育委員との意見交換が反映されている。

１番目が地域の担い手の育成で、これは複数の委員から出されていたと思う。やはり、色々な活動をしても、段々と活動している人が偏るとか、次の担い手がいないなどの話もあり、地域人材の掘り起こしや、継続的な関わり。単発では来てくれるが、なかなか継続的な担い手になってくれない。そのコアとなってくれるリーダーの人が、１０年も２０年もやってくれるが、その次に繋ぐという意味では、やはりリーダーの育成が大事。逆にリーダーは意欲的に一生懸命やってくれるが、そのリーダーを支える周りのボランティアが、意欲を持って主体的に社会教育に関わっていただくことに苦労しているという話がある。
部活動の外部講師も地域の担い手という意味では、少し関連するのかと思う。社会教育を通して、地域の担い手をどう育てるかというところに大きくテーマが係わるかと思い１番目に挙げた。

２番目は施設の有効活用。市内にも色々と施設があるが、その施設の利用や活用を考えても良いのではないかという話があった。これもまた他市と関連するかと思い、市が公民館や障害者施設、スポーツ施設、学校開放を行っていると思うが、きちんと使わないと不要と言われるところもあり、有効活用というのがあると思った。

３番目の清瀬市ならではの資源を活用した社会教育活動ということで、せっかく他市の方にも来ていただくため、清瀬市の特徴的な事業や活動、団体などの実践や事例、施設などを紹介するというようなご意見をいただいた。

４番目は１番目とも関連するが、特に若い世代の参加や参画。若いという定義は個人差があるが、子供や若者という意味でもあれば、現役世代ということも含むかと思う。
しかし、社会教育、生涯学習はやはり年齢層の高い人たちが担っているというイメージがある。若い世代たちが参加参画してくれるような仕掛けや仕組み、事業とはどういうものなのか。
この中に多世代交流、子供とシニアのような話も前回いただいたが、多様な世代が参加できるという仕掛け、仕組み、環境づくりということも話の中で出ていた。

５番目はこれからの教育の方向性。色々と議論していくために、まずは大きな教育の政策や方針、方向性や教育政策も大きく変わってきている。今の教育はどういう方向に向かっていくのか。そういう話をまず共有するというのもいいのではということで、これからの教育の方向性、国の教育振興基本計画などを共有するという話があった。

６番目のコミュニティスクールについては、清瀬でもコミュニティスクールが進んでるいる。コミュニティスクールを苦労して進めていると思う。ここにも部活動の外部講師が入っているが、地域移行や外部講師という話も、今非常に課題だというご意見が出ている。
学校を核とした地域の繋がりづくりというのがテーマ。

７番目が教育委員との意見交換で不登校支援に係るネットワーク。他市もいらっしゃる中で、これを絡めて検討するというのも有りかと思う。できれば今日テーマを絞りたい。

これまで私が色々と参加してきたブロック研修会のやり方を、方法案としていくつか出してきた。
ひとつは、事例検討は清瀬から複数の事例を出してもいいと思う。テーマに対してこういう事例をお持ちの市は出してくださいとお願いするのもいいと思うが、色々な事例を出し合ってそれを検討する。
２番目は基調講演で、有識者の方に政策動向や、テーマに関わる事例などの話をしていただく。パネルディスカッションは事例検討と少し似ているかも知れないが、事例を基に共通するテーマで複数の登壇者に出ていただき、それぞれ何か発表していただいた後で、意見交換を登壇者同士でしていただく。
グループでの話し合いは、市をミックスしてグループを組むことが多いかと思うが、テーマについて、グループの中で情報交換や意見交換をする。ワークショップのグループでの話し合いに近いが、あまり講演や事例報告というのがあるというよりも、主にグループの中で意見交換をする。
そしてラウンドテーブルは、報告者がグループの中にいて、報告を聞きあって、紹介し合うというような方法。
こうした方法を組み合わせ、２時間から２時間半ぐらいの研修を組んでみた。
参加者が例年３、４０人ぐらい。年にもよるが、そのような規模感。
色々な市の方が集まって研修をするテーマとして、せっかく清瀬で実施するので、清瀬がやりたいことが良いと思う。どのテーマがいいかということについてご意見をいただきたい。

（西田委員）
私はやはり、自分が所属する団体も含めて、４番の若い世代の参加参画を含めた地域の担い手の育成というのが、常に問題意識を持っているところ。現役世代を巻き込むことで事業が活性化する。自分たちの中からコアメンバーが生まれていることもあるので、このテーマがいいと思っている。

（玉置委員）
前回のブロック研修会に参加した。事例検討とテーマについて、グループで意見交換があった。三つぐらい課題があり、それに対する発表会。それだけで時間を使ってしまい、意見交換が５～１０分しかなかった。まとめもできなかったので、そこにもっと時間を割いてもいいかと思う。
テーマとしては、１と４番が今の清瀬としてはいいのかと思う。

（倉持議長）
　何か事例を聞いて、意見交換をする。意見交換の時間を２０分ぐらい確保する。
　事例も貴重だが、やはり事例を聞いてから話したいことがたくさん出てくる。清瀬で実施するときは、自己紹介だけで終わらないように、話し合いの時間をきちんと取るということで、ご意見ありがとうございます。
　相蘇委員、いかがか。

（相蘇委員）
　このグループ研修会の目標を、清瀬の社会教育委員の会議としてどこに置くか。
　困っていることや、他市で実際に行っている情報を集めたいということなのか。逆に、一緒に分からないことを、どんなアイディアがあるか、そのアイディアを出してもらう会議にするか。先行事例があるところに学びたいとか、逆に清瀬として先行事例を提案して、皆さんからご意見を伺うなど色々あるかと思う。
　私は１年以上この会議に参加させていただいているが、社会教育ということに関して、清瀬は根本のところからきちんと考えなくてはいけない段階なのかと思っている。
　去年１年間をかけて、文化祭をどうするかという話をずっとしてきたが、結局そこに参加できる人は少ない。発表はしたいが運営はやりたくないという傾向になっているという話が出ていた。若い世代に社会教育の色々なイベントに参加してもらい、そこから自分で教養部分を広げていくような形にするのかと思っていた。
　地域の担い手というのは、社会福祉的なことばかりではない。文化も含め、例えば大正琴をやっている人たちが大正琴を運べなくなったので、文化祭は出ませんとか。それを運ぶメンバーがいればできるとなれば、地域の担い手としての参加の仕方もあるとか。何か幅が広がるような気がする。
　大正琴を学ぶ気はないが、市民文化祭の盛り上げチームがボランティアとして参加しようというようなこと。
　結論としては１番と４番かと思うが、どちらかと言えば、４番がウエイトとしては高い。

（倉持議長）
　おそらく、どの市も課題だと思っていること。一緒に考えるというタイプの設定の仕方がいいのかと思う。

（相蘇委員）
　基調講演を聴いて、実情を教えてもらう。

（倉持議長）
　各市で実際に行っていることを最後に発表してもらう時間があってもいいかもしれない。
　斎藤委員、いかがか。

（齋藤副議長）
　私は、３番の清瀬市ならではの資源を活用したところを話し合ってみたいと思っている。
　ブロック研修会などに参加して、各市がその市ならではの何か、というのを聞くと、清瀬市にはここは無かったとか、ここは無いけれども、こういうことはできる。そのような

考えも生まれてくる。
　そのため、清瀬市ならではというところを、私はやってみたいと考えている。

（倉持議長）
　それこそ、他のテーマと重ねることもできる。そのテーマで清瀬市ならではのことで、実際にどのように行っているか。あるいは清瀬市で検討したが、こういう課題が見えてきたとか。

（松山委員）
　１番と４番のテーマで賛成である。
　方法は、事例検討とグループワークの時間をしっかり取って行うのが良いのではないかと思う。

（倉持議長）
　テーマとしての方向性は、地域の担い手と若い世代。
　若い世代に焦点を当てた地域の担い手育成、清瀬市の事例も出す。清瀬市の資源をうまく出すという方向でやってみてはどうか。事例の位置づけを解説できるコーディネーターやコメンテーターというような進行役が必要。こういうことを話してくださいという誘導をしていく講師が必要。
　テーマについては、１番と４番を組み合わせたテーマ案を考えていただきたい。

（事務局）
　来年度の会長市である町田市から、来年度の統一テーマが発表された。
　そのテーマが、「自ら学び、あなたと考え、共に創る私たちの町と未来」なので、若い世代と一緒に考えるというテーマでも良いかと思う。

（相蘇委員）
　地域と担い手という方に重きを置いて、そこに若い人たちにどう参画してもらうか、というようなサブタイトルをつけると良いと思う。

（倉持議長）
　方向性としては決まったので、タイトル案とテーマ案を１人１個は考えて、事務局に連絡していただきたい。事務局は２月末にリマインドを皆さんに送っていただく。事例検討とグループで話す方法で、あとは事例検討をどうするか。
　清瀬以外の自治体にもお願いするとなると、お願いする期間も取らないといけない。

（相蘇委員）
　何か検討というより、清瀬から提案させていただいて、話す話題として、困っていることやうまくいったなど、一つ提案させていただく。それを基に、皆さんに十分に各市の状況も踏まえて話をしていただく方が、話が深まるような気がする。

（倉持議長）

各市には、グループワークで話し合うための資料や、何か自分の市や自分の団体で行っている若い人を巻き込む事業、あるいは担い手育成の取り組み、困っていることなどを持ち込んでいただくようにお願いする。自分の市がどういう活動や事業をやっているか、それを通して知ってもらうのも大事。
事例を発表するのに、考える素材を探していただきたい。去年検討されたという文化祭の検討もいいのかも知れない。
私は皆さんからいただいたものを踏まえて、松山委員にもご協力いただいてテーマ案と呼びかけ案、進め方を考えてくる。皆さんはこんな事例があり、この人に話してもらえたらというのを考えてきていただきたい。
次回の会議後、少し整ってきたら、他市への呼びかけは事務局を通してやっていただくことになると思う。

では報告事項に移りたいと思う。
令和５年度市町村社会教育委員連絡協議会、第２回理事会の報告についてということで、私が出席できなかったため、事務局より説明をお願いしたい。

（事務局）
１２月１３日に理事会が開催され、出席してきた。
報告内容は統一テーマが決ったこと。それと、令和５年度の収支の決算の見込み額が報告され、それが当理事会で承認されたというのが大きなところだ。詳細については割愛する。

事務局からの事務連絡として２点ある。
男女共同参画センターの運営委員会より、委員の任期満了に伴い、社会教育委員から１人推薦していただきたいとのこと。任期は２年。会議は年２回。
今期については松山委員にお願いをしており、任期が今年の３月３１日までとなる。
来期、今年の４月１日から令和８年の３月３１日まで、男女共同参画センターの運営委員会の委員として、お願いできる方がいたらご推薦させていただきたい。

（齋藤副議長）
私がやります。

（倉持議長）
斎藤委員がご担当いただけるということで、よろしくお願いします。

（事務局）
２点目として、昨年の１２月にも開催した教育委員との懇談会について、来年度の予定として教育企画課から話があった。
候補日として、今年の１２月２４日、２５日、２７日の３日間が提示されている。
先の話ではあるが、既に都合が悪いという日にちがあれば、事務局に知らせてほしい。
（相蘇委員）
２５日は都合が悪い。

（事務局）
　では、２４日か２７日で回答させていただく。また、どうしても都合が悪いということであれば、改めてお知らせいただきたい。

　次回の会議は、５月２０日（月）午前１０時から１２時までを予定している。

（倉持議長）
　次の会議に向けて、宿題のお願いをさせていただいた。
　一つは、不登校支援のネットワークについて意見交換をした。それに向けてイベントや活動、原案を考えて来ていただきたい。
　こういう人に、こういう時期で、こういう内容でというように、どんな部分でも構わないので、原案を考え来ていただきたい。
　もう一つは、４ブロック研修会について、タイトルと事例報告。
　このような方、このような団体に話していただくと良いのではないか、という推薦を少し考えて来ていただきたい。このあたりを宿題にさせていただいた。
　では、令和５年度第６回社会教育委員の会議を終了する。